

2026年度事業計画書

－2026年4月1日～2027年3月31日－

生命科学にかかる科学技術の振興を目的として、以下の助成、褒賞、普及・啓発事業を行う。

I 助成事業

1. 研究開発助成

(1) 研究開発助成（国内）

生命科学にかかる科学技術に関する国内で実施される研究開発で、医療現場において新しい価値を提供する研究開発を支援する。募集期間は2026年4月～6月を予定。

1) 助成区分と対象及び助成金額

○特定研究開発助成

「新しい価値を提供する医療機器の研究開発」を指定研究テーマとし、1,500万円/年を3年間助成する。採択数は原則1件。

○開発助成

下記の2つを指定領域とし、500万円/年/件を助成する。助成期間は1～3年まで選択できるものとし、採択数は合わせて8件程度を目安とする。

- ・ 医療機器開発
- ・ 再生医療開発

○研究助成

下記の7領域を指定領域とし、300万円/件又は100万円/件（看護の研究、医療安全の研究）を助成する。助成期間は1年とし、採択数は合わせて120件程度を目安とする。

- ・ 医療機器研究
- ・ 再生医療研究
- ・ バイオマテリアル研究
- ・ 生理活性物質・生体成分研究
- ・ 予防医療研究
- ・ 医療安全・レギュラトリーサイエンスの研究
- ・ 看護の研究

2) 成果報告

助成期間終了後、研究報告書及び会計報告書の提出を課す。なお、特定研究開発助成及び開発助成の複数年助成については、中間報告をもとに継続審査を実施する。

3) その他

2027年3月に贈呈式を開催する。

(2) 研究開発助成（海外）

開発途上国で、医療、公衆衛生等の研究に携わる研究開発者に対し、その研究開発を支援する。募集期間は2026年5月～8月を予定。

1) 対象及び助成金額

開発途上国における、地域社会に貢献する医療、公衆衛生等の研究を対象とし、300万円/件までの申告額を助成する。助成期間は1年とし、採択数は3件程度を目安とする。

2) 成果報告

研究期間終了後、研究成果報告書及び会計報告書の提出を課す。

2. 国際交流助成

生命科学にかかる科学技術に関する研究を目的として実施される研究集会に助成する。

2026年度下半期（10月～翌年3月）に実施される研究集会の募集を7月に、2027年度上半期（翌年4月～9月）に実施される研究集会の募集を2027年1月に行う。

1) 対象及び助成金額

生命科学にかかる分野の研究集会などを対象とし、その費用の一部を助成する。下記の区分に分けて募集を行い、助成金額は50万円以内/件とし、採択数は合わせて60件程度を目安とする。

・ 集会助成

日本で開催される研究集会、海外で開催される場合は国内の学会が共同主催するもの。
参加者が300人以上で海外からの参加者が見込まれるもの。

・ 小規模研究会助成

日本国内で開催される研究集会、又は研究者の国際交流を支援する集会。
参加者が300人未満のもの。

2) 成果報告

成果報告書及び会計報告書の提出を課す。

3. 医療貢献活動助成

国内および開発途上国における次の活動に助成する。募集期間は2026年7月～9月を予定。

1) 対象及び助成金額

国内においては疾病・医療に関する普及啓発などの社会貢献活動を行う非営利法人に対し、開発途上国においては医療・保健の水準向上を目的に活動する非営利活動法人に対し、100万円/件を助成する。助成期間は1年間とし、採択数は合わせて15件程度を目安とする。

2) 成果報告

活動実績報告書および会計報告書の提出を課す。

II 褒賞事業

森下泰記念賞

医学と工学の連携・融合領域において顕著な業績を上げ、今後のさらなる研究の進展が期待される研究者を顕彰する。募集期間は 2026 年 6 月～8 月を予定。

1) 対象者

日本国内の研究機関に所属する研究者を対象とし、医工連携・融合領域において顕著な業績を上げ、その将来が期待できる者 1 名を顕彰する。副賞は 3,000 万円。

2) 表彰

2027 年 3 月の贈呈式において表彰する。

III 普及・啓発事業

若い世代を対象に生命科学研究の魅力を伝える活動を展開する。

1. 中高生向け Web サイト「生命科学 DOKIDOKI 研究室」

「いのちの不思議」を全体のテーマとし、下記の 4 つの企画を更新する。

- ・ いま注目の最先端研究・技術探検！
- ・ この人に聞く「生命に関わる仕事っておもしろいですか？」
- ・ 中高生が第一線の研究者を訪問「これから研究の話をしよう」
- ・ マンガ de ひもとく生命科学のいま「ドッキン！いのちの不思議調査隊」

さらに、下期からは、学校現場における調べ学習や探究学習、進路選択の場面など、中高生の活用シーンに即した新たなコンテンツ構成による Web 情報提供の充実を図り、より多くの読者に記事を届けやすいサイトを目指してリニューアルする。

また、Web サイトへの誘導施策として、X(旧 Twitter) による情報発信、高校生および中学生（約 6 万人）を対象としたメッセージノートの配布を継続し、サイトの浸透を図る。

2. 書籍の寄贈

2026 年 3 月に発刊した Web サイトの書籍化「いのちの不思議を考えよう」シリーズの第 6 弾を、全国の中学校・高校（1,000 校程度）へ寄贈するとともに、財団主催のイベントで活用する。

3. サイエンスカフェ

全国の高校生 30 名程度を対象とし、2026 年 8 月 7 日（金）～8 日（土）に開催を予定。医工連携の最先端施設である TWIns にご協力いただき、講義や実習を通じて高校生に最先端の生命科学にふれてもらうことにより、将来の進路のヒントを提供する。

4. 中高生向けシンポジウム

将来の進路を考えはじめた大学進学を希望する中高生を対象に、医学と工学の連携・融合領域／生命

科学分野の研究の魅力や意義を伝えるシンポジウムを開催する。第一線の研究者に加え、大学生・大学院生等も登壇者として参画することで、研究分野や研究活動をより身近なものとして伝え、この領域への興味・関心を喚起するとともに、自身の将来像・職業像を考える一助とする。

以上